

学校だより **本荘** 2023 *Smile*

令和5年度 第26号
令和5年9月20日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

6年生の修学旅行その2。やっぱり最高学年というものはすばらしい。



6年生の修学旅行の報告その2です。表題の通り、やはり最高学年の子どもたちは素晴らしかったです。左上の写真は出発式の様子ですが、きちんと自治活動ができていました。先生が進行をするのではなく、係の子どもがしっかりと司会をしていました。やらされ感覚の修学旅行ではなく、自分たちの学びとして捉えていました。校長の挨拶として、修学旅行は、思い出づくりの一面もあるが、何よりも「学びを修める」旅行であることを伝えました。真面目に頷きながら聞いてくれる子どもたちに頼もしさを感じました。

その隣の写真は、平和公園に向かう子どもたちの様子です。本荘小学校の修学旅行は、貸切りバスを使わないので、徒歩で歩くことが多いのですが、写真のように整然と意欲的に行動することができていました。こういった姿に心持が表れるものですが、ちゃんとカメラを向けるとポーズをとってくれる愛嬌もあるところが子どもらしくてよいのだと思います。

下の写真は、出島でのスナップ。しっかりと歴史の学習をしていました。でも、ただ見学するだけではなく、友だちと一緒にノートをまとめたり、先生と一緒に話をしたりしながら、楽しく調べ学習をしていたのです。先生への信頼感や友だちとの友情等、なかなか具体的に言い表せないものが、こういった写真に表現されるのも、修学旅行ならではの「あるある」なのだと、修学旅行18回目の校長先生は思ったのでした（笑）。（裏面に続きます）

以前、6年生を担当した教え子から電話をもらったことがあります。その時の彼は、大学で平和教育の研究をしていました。平和教育に関する論文をまとめるので、相談に乗ってほしい、いくつか質問もあるので、教えてほしいということで、当時の担任を頼ってきたのです。ちょっと変わった研究だと思ったので、「なぜ、その研究をしているのだい?」と聞いてみました。彼が言うには、そのきっかけは、6年生の時の修学旅行だったそうです。当時の担任としては大変うれしかったのですが、教え子の言葉から、みんなでしっかりと学んだことは、大人になっても心に強く残っているものだということを実感したのです。

6年生の子どもたちにとっても、後に続く他の学年の子どもたちにとっても、本荘小の修学旅行が、そのような「学びを修める」修学旅行になってくれればうれしいです。

この日は、長崎市内を散策し、歴史文化博物館や中華街でのランチなど、長崎の魅力を満喫しました。よく学び、よく遊び、しっかりと思い出もつくった6年生でした。大変、幸せな修学旅行となったわけです。

この学校だよりを讀んだ子どもたちが、「今の6年生のような修学旅行を目指したい!!」とってくれたらうれしいなあ・・・と願う校長先生でした。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「街角ピアノ長崎編」



6年生のみなさんです。場所は長崎駅の構内です。人気番組「街角ピアノ」のようにピアノの演奏をしてきました。演奏者囲む仲間たち。とてもすばらしいクラスメイトです。なんと、長崎駅の中で、このまま本荘小学校の校歌を歌っていました。どこでも自分の学校の校歌が歌える子どもたち、すてきな子どもたちですね。